

パターンⅢ【追加投入・仕損品評価額あり】

C工場は製品Zを生産・販売し、実際総合原価計算を採用している。次の【資料】にもとづいて、以下の問いに答えなさい。なお、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分する方法として先入先出法を用いること。

【資料】

1. 生産データ

月初仕掛品量	4,000 kg (50%)
当月投入量	<u>60,000 kg</u>
合計	64,000 kg
差引：正常仕損量	1,000 kg
月末仕掛品量	<u>3,500 kg (50%)</u>
完成品量	<u><u>59,500 kg</u></u>

2. 原価データ

月初仕掛品原価	
A 原料費	560,000 円
加工費	<u>320,000</u>
小計	<u>880,000 円</u>
当月製造費用	
A 原料費	10,800,000 円
B 原料費	720,000
加工費	<u>9,037,500</u>
小計	<u>20,557,500 円</u>
合計	<u><u>21,437,500 円</u></u>

- (注)
- ・ () 内は加工費の進捗度である。
 - ・ A原料費は工程の始点で投入している。B原料費は工程の 70%の時点で投入しており、B原料費はすべて完成品に負担させる。
 - ・ 正常仕損は工程の終点で発生しているため、正常仕損費はすべて完成品に負担させる。
 - ・ 仕損品に処分価額は無い。

問1 答案用紙の総合原価計算表の()内に適切な金額を記入しなさい。

総合原価計算表

(単位：円)

	A 原料費	B 原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	560,000	0	320,000	880,000
当月製造費用	10,800,000	720,000	9,037,500	20,557,500
合計	11,360,000	720,000	9,357,500	21,437,500
差引：月末仕掛品原価	()	()	()	()
完成品総合原価	()	()	()	()

問2 上記【資料】について、同じデータで仕損品の売却による処分価額を1kg当たり90円としたときの完成品総合原価を計算しなさい。

完成品原価

円

参考メモ【仕掛品ボックス】

仕掛品－A原料費

月初有高		当月完成	
当月投入		仕損費	
		月末有高	

仕掛品－B原料費

月初有高		当月完成	
当月投入		仕損費	
		月末有高	

仕掛品－加工費

月初有高		当月完成	
当月投入		仕 損 費	
		月末有高	